Press Release

2022 年 4 月 14 日

ドローン・ジャパン株式会社

「ドローンワインプロジェクト」開始

～「ドローン&AI」を活用した“農薬・化学肥料に頼らない栽培支援技術”を開発。
その技術を発展させ、「ひとりでも多くのワイン用ブドウの有機栽培生産者を増やす」ことを目指す活動～

ドローンに装着する様々なカメラで「農作物」を上空からから撮影、その撮影画像を AI 解析することで「その作物の生育状況」を判断し農業に役立たせる技術が今世界で広がりつつあります。

ドローン・ジャパン株式会社（*1）（所在地：東京都千代田区　代表取締役：勝俣喜一朗）は、2020 年より南仏のワインの生産者の協力を得ながら「ドローン&AI」を活用し、“農薬・化学肥料に頼らない栽培支援技術”として、テロワール(ワインぶどう畑)の見える化を「ブドウ樹と雑草との区別分布」、「ブドウ畑の地力分布」にして表現する技術を開発しました。

そして、その技術を活用・発展させ、「ひとりでも多くのワイン用ブドウの有機栽培生産者を増やす」ことを目指す活動をこの度「ドローンワインプロジェクト」と称し開始します。

また、協力生産者の畑から収穫されたブドウの一部を原料にした、2020 年のヴィンテージワイン、「ビコーズ, アイム シャルドネ フロム サザンフランス」（株式会社フィラディス輸入(*2)（所在地：神奈川県横浜市　代表取締役：石田大八朗）と、「アッサンブラージュ ブラン 2020」（株式会社成城石井輸入(*3) (所在地：神奈川県横浜市　代表取締役：原昭彦)が、それぞれ本日、販売開始されます。

フィラディス「ビコーズ, アイム シャルドネ フロム サザンフランス」

成城石井「アッサンブラージュ ブラン 2020」

ドローンワインプロジェクト：Landing Page：　https://www.dronewine.net/
紹介 VIDEO：　https://youtu.be/SW1jZaXhUzw

１．ドローンワインプロジェクトとは（＝SDGs 15 陸の豊かさ）

気候変動に影響を及ぼしているとされる「農薬と化学肥料の過剰な使用」を食い止め減少させてゆくことは、SDGs の観点から農業分野が取り組むべき緊急かつ大きな課題です。その課題解決策として、農薬と化学肥料を最小限もしくは使用しない農業のための“技術開発”が求められています。

（参照：農林水産省 「みどりの食料システム戦略」 https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html）

そこで、ドローン・ジャパン社はフィラディス社と成城石井社が既に輸入・販売しているフランスのワインの生産者の協力のもと「ドローン＆AI」を活用した農薬・化学肥料に頼らない“栽培支援技術”(栽培の有機化を支援する技術)を開発しました。

・なぜフランス？

2,000 万 ha にも及ぶ農地を誇る農業大国フランス。現在、フランスの有機栽培農地の割合は全体の 10%であるのに対し日本国内はまだ 0.5%ほど。フランスでの化学肥料の年間使用量は農地規模比率で日本より 40%少ないとされています。（参照：総務省「世界の統計 2021」https://www.stat.go.jp/data/sekai/pdf/2021al.pdf）

日本の政府目標である“2050 年に有機栽培農地比率 25%（現在から 50 倍）”に向けた取り組みにおいてフランス農業は日本が目指すべきロールモデルとなり得えます。

・なぜワイン用ブドウ？

フランスにおいて全農地のうち最大の面積を占めるのがワイン用ブドウ畑。その有機栽培支援技術を「ドローン＆AI」でダイナミックに研究・実証・開発してゆくことが、今後日本の農地、ひいては世界の有機栽培比率を上げる大きなヒントとなると考えます。

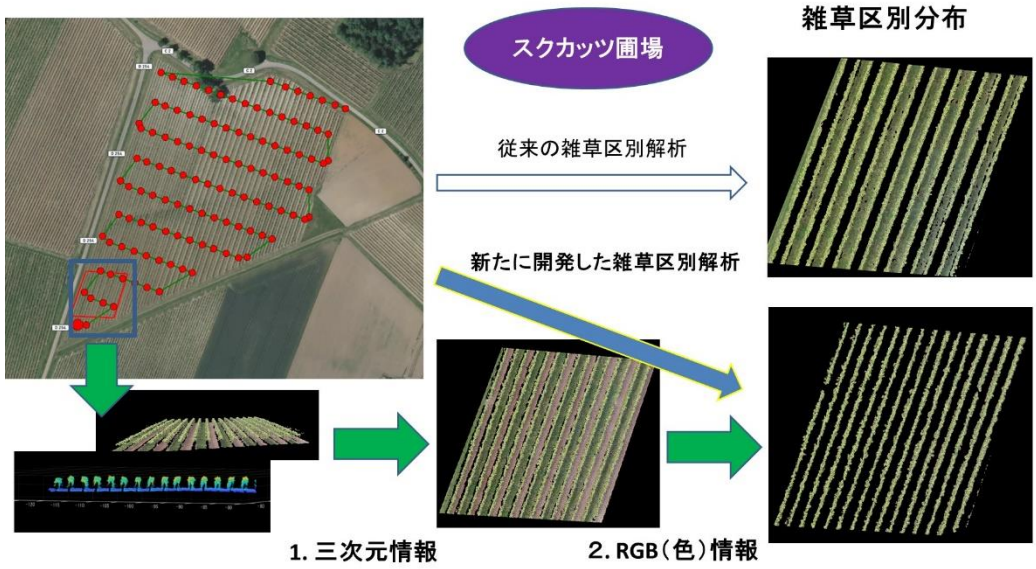
・ドローンワインプロジェクトとは、

「ひとりでも多くのワイン用ブドウの有機栽培生産者を増やす」ことで「SDGs 15 陸の豊かさ」を推進するプロジェクトです。

２．現時点において当プロジェクトで開発した「ドローン&AI」技術について

ドローンの「自律航行方法」「カメラの種類と設定」から「解析手法」まで様々なパターンを試行し、その解析結果を生産者に実際のワイン用ブドウの生育状況と比較検証してもらいながら、テロワール（ワインブドウ畑）の見える化を実現しました。特に、下記２点の技術については生産者からも高い評価を得られています。

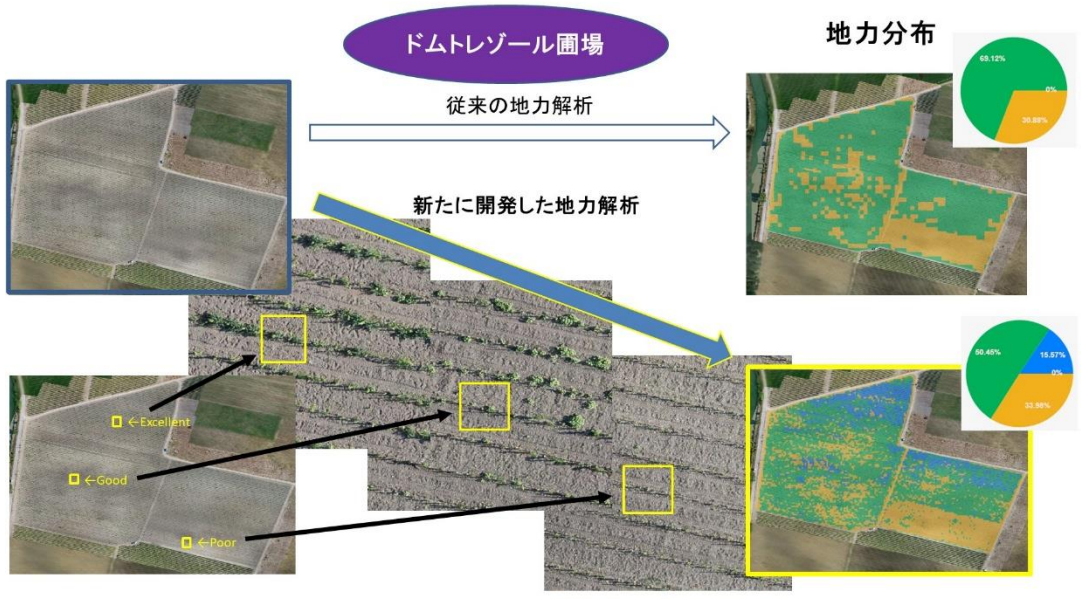
①　**「ブドウの葉と雑草の区別分布」**



（生産者：フィリップ フェザス氏　）

ドローンで撮影した画像を色とあわせ３次元情報を加えることで、「ブドウの葉と雑草の区別分布」を可能にする新たな AI 画像解析技術。この分布図は雑草と“共生”するワイン用ブドウの栽培に活用でき、農薬・化学肥料を少なくすることに役立ちます。

②　**「ブドウ畑の地力分布」**



（生産者：ベルナルド カマン氏）

ワイン用ブドウの樹勢の生育期ごと「形・色・大きさ」を学習、AI 画像解析することで地力分布図をつくる技術。
この地力分布図から精密な肥料設計・計画が可能となり、化学肥料を少なくすることに役立ちます。

３． 生産者（南仏）のその具体的な活用

―フィリップ フェザス氏：ガスコーニュ地方、成城石井社取り扱い生産者
「ブドウ樹と雑草との区別分布」を農薬・化学肥料を少なくする雑草と共生する栽培に活用
（インタビュー動画　https://youtu.be/RPnIuZpebMA）
―ベルナルド カマン氏：ラングドック地方、フィラディス社取り扱い生産者
「ブドウ畑の地力分布」を参考とした「精密施肥」で化学肥料を少なくする栽培に活用
（インタビュー動画　https://youtu.be/AOolkyb4ybM）

4. ドローンワインプロジェクトの協賛パートナー　フィラディス社 社長 石田大八朗のメッセージ

（インタビュー動画　https://youtu.be/BNnfAedBf8w）

５．今後の目標と取り組み

2050 年に日本国内の有機栽培面積を 25%に飛躍拡大させていくことを支援する「ドローンによる AI 画像解析技術」を開発・発展させていきます。また、「ドローンワインプロジェクト」を拡大させるために応援いただく方々を募り、この技術を活用するワイン用ブドウの有機生産者・有機圃場を増やしていくことに取り組んでまいります。

<*（１）～(３）の説明>
＊（１）ドローン・ジャパン株式会社　http://www.drone-j.com/
　ドローンワインプロジェクト Page にて詳細　https://www.dronewine.net/
＊（２）株式会社フィラディス
　プレスリリース　https://firadis.co.jp/news-release_dronewine/
＊（３）株式会社 成城石井
　アッサンブラージュ ブラン 2020　https://www.seijoishii.com/d/83492

<問い合わせ先>
ドローン・ジャパン株式会社 代表取締役 勝俣喜一朗
・メールアドレス:　info@drone-j.com　　・電話番号:　03-6869-1384